

サクラマス的一生

秋は「鱒のすし」で有名なサクラマスの産卵シーズンです。サクラマスは川で生まれ、海で成長し、再び川に戻り産卵し、一生を終える回遊魚です。県内では、大部分が神通川でとれます。サクラマス的一生をみてみましょう。

● サクラマスとヤマメは同じ種類の魚

サクラマスは体長が70cmにもなりますが、溪流釣りで有名な体長10-15cmのヤマメと同じ種類の魚です。サクラマスとヤマメ、大きさや模様は違いますが、海に下り、成長して川に戻ってくる大型のものをサクラマス、川にいる小型のものをヤマメと言って区別しています。ヤマメは日本では北海道から神奈川県までと日本海側全域、九州に分布します。海へ下るのは、山口県より北の日本海側、太平洋側では千葉県より北です。

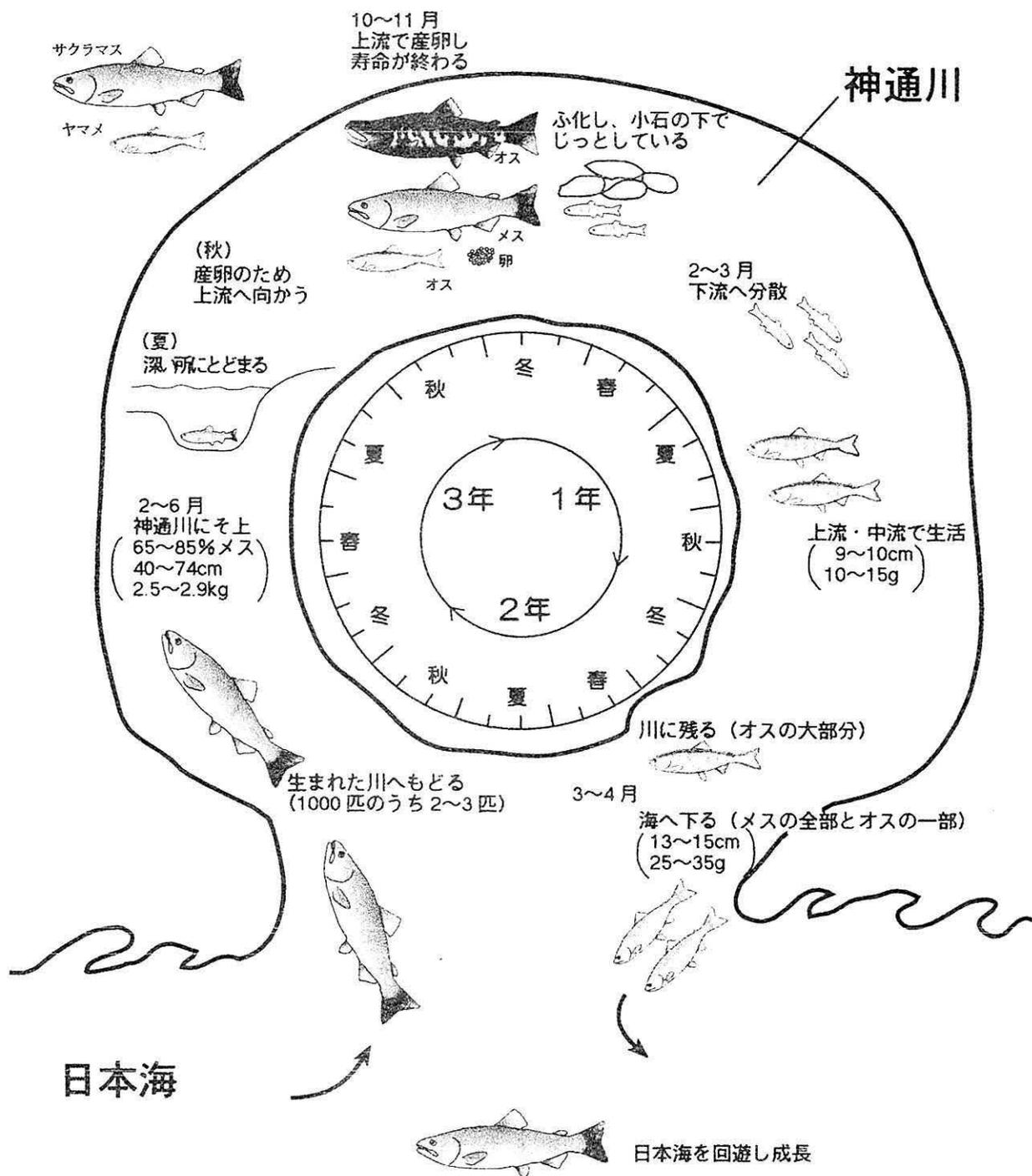
● 神通川での生活史

サクラマスは、秋（10～11月）に神通川本流や支流の井田川、熊野川上流部で産卵します。水温8℃、55日ほどでふ化し、稚魚は冬の間小石の下で過ごします。春には、雪解け水の増水により下流に広がっていきます。アユの解禁の6月下旬頃には10cmほどのものが中流でよく見られます。はじめは川で成長しますが、翌年の2月頃には海へ下るものと川に残るものがでてきます。3～4月が海へ下る時期で、その時の体長は13～15cm、体重は25～35gで、8割がメスです。海に下ったものは、日本海の北部（オホーツク海）まで回遊します。翌年の春には体長40～70cm、体重2.5～2.9kgほどに成長し、生まれた川に帰ってきます。戻ってくるのは1000匹のうち2～3匹ほどです。川へ入るとエサはほとんど食べず、深い場所（淵と呼びます）などで過ごします。秋には産卵場所をめざして再び上流へのぼり、産卵の後、3年の寿命を終えます。繁殖するペアは多くの場合が大きな体のサクラマスのメスと小さな体のヤマメのオスです。

● 減ってきたサクラマス

サクラマスは、神通川で明治40年代には多い年で160トンもとれていましたが、最近では数トンしかとれているにすぎませんのでかなり減ってきました。富山県の絶滅危惧種のリストにあがっているくらいです。その大きな原因は、ダムの建設や河川工事のために川の形が変化し、稚魚や親のすむ場所及び産卵場所が少なくなったためだと考えられています。

神通川のサクラマスとヤマメの生活史



(なんぶ ひさお)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>